

2018年3月27日

学会認定・臨床輸血看護師制度

協議会 会長 大戸 齊

審議会 会長 田崎哲典

試験委員長 梶原道子

(1) 筆記試験

1. 実施日、会場：平成29年11月5日（日）、TKP心斎橋駅前カンファレンスセンター
2. 時間、内容：2時間（10：00～12：00）
多肢選択式問題40題（80点）、記述式問題2題（20点）、計100点満点
3. 受験者数：270名
（受験申請者274名中、欠席者4名を除く）
4. 成績：平均点77.55点、最高点98点、最低点45点、標準偏差8.05点
5. 筆記試験合格者数、合格率：263名、97.4%（263/270）

(2) 病院研修

1. 期間、会場：平成30年1月～3月において、1日間
学会認定・臨床輸血看護師制度協議会の認定施設
2. 研修者数：261名
（筆記試験合格者263名中、2名が施設研修を辞退した。）
3. 研修終了者数：261名
（施設研修を受けた261名において、不合格と判定された者はなかった。）

(3) 最終認定者数、認定率：261名、95.2%

（受験申請者274名に対する割合）

(4) 講評

TKP心斎橋駅前カンファレンスセンターを会場として、平成29年11月4日（土）に講習会が、5日（日）に筆記試験が行われた。講習会は4日、13時よりスタートし、総論の後、5名の講師により途中で約20分の休憩を挟み、19時まで行われた。テーマは、内科、外科・周術期、救命救急、産婦人科、小児科の各領域における輸血療法とした。筆記試験は5日に行われ、講習会参加者270名全員が受験した。結果は上記の如くで、62点（平均点-2SD）以上の263名が合格となった。

病院研修は全国の指定施設で行われた。評価は、①輸血の意義と目的、②血液製剤の取り扱い、③輸血看護、④輸血副作用、⑤輸血検査、⑥血液製剤の準備・払い出し・管理、⑦症例検討の計7項目について、それぞれ（a）特に優れている、（b）優れている、（c）良い、（d）劣る、の4段階で行われた。各項目（b）との評価が最多であったが、⑤と⑥において（d）と判定された受験者がそれぞれ5名、2名いた。総合評価も（a）～（d）の4段階で行われ、病院研修者261名は、（a）81名（31.0%）、（b）171名（65.5%）、（c）9名（3.5%）と判定されたが、（d）は皆無であった。

以上より、病院研修を行った261名の修了が確認され、第8回学会認定・臨床輸血看護師として認定された。

(5) 講習会、病院研修での問題点

講習会は2つの会場でTV会議システムを用いて行われたが、データ通信の許容量オーバーのために、パワーポイントの画像が複数回フリーズした。今後はできるだけ一会場で行い、動作の事前確認を十分に行う必要がある。また、当日になって予定の講師が来られないという事態となり、急遽、本制度の委員が代講を行った。次回以降は、講習会が近づいた段階で、各演者に再確認を行うこととなった。病院研修においては大雪のため一部の研修者には直前になって研修病院の変更をお願いし、研修病院にも多大な迷惑をかけた。病院研修ができるだけ近隣で行えるよう、更なる研修病院の確保に努める必要がある。